「お断り」なんて出来ないよ

ｍｉЯａｉ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
「お断り」なんて出来ないよ

【Ｎコード】
Ｎ０６０１Ｒ

【作者名】
ｍｉＲａｉ

【あらすじ】
――僕には、伝えたいことができた。それはとても怒りに満ちていた。今すぐ奴に一言を言ってやらないといけない――
不器用な恋の短編小説です。

（前書き）

よくわからない短編小説です。こういうのも素敵じゃないかなぁ、と思いつきで書きました。

《あなただけが知ってる～私は～それでも～まだ――》

たまたま付けたラジオから偶然漏れ出した曲。僕はその異様な聞き覚えに違和感を感じずにはいられなかった。

次に生まれたのは怒りの感情。気が付けば身体の制御が出来ておらず、携帯とＩＣレコーダーを持ち出し、車に乗り込んでいた。

目的地は確認出来ていた。近場の公園だ。公開収録らしい。

そして先の流れていた曲は、今や邦楽チャートを総なめしているとのこと。

笑わせてくれる。

着くまでに時間はかからなかった。よくよく考えれば電話で十分じゃないかと思ったがもう遅い。ここまで来たら言いたいこと直接言ってやる。

バリケード越しに見える歌手は、未だ楽しそうに収録を続けている。その表情に僕はもう我慢ならなくなり、大勢の人込みをかき分け彼女に近づいていく。

警備員が取り押さえに来たが、それをも掻い潜る。今の僕を止めることは出来ない。

気が付けば目標は目の前。遂に言ってやる時が来た。

「な、なんでしょうか？」

唖然としている彼女。だが、そのセリフは僕の方だ。

大きく息を吸い込んで一言。

「人の曲ぱくってんじゃねえよ！！！！！」

持ってきたＩＣレコーダーを流しながら突き付けて言ってやった。

勝った。そう思った。

けど、なぜだ？彼女の表情は一変、穏やかなものになっていた。

「やっと会えました」

「はぁ？」

今度は彼女が僕に近づいてくる。そして細々した両手でＩＣレコーダーを持った手を握ってきた。

「はじめて聞いたときからすばらしいなって思ったんです。もう五年も前になりますかね…一度しか聞くことの出来なかったこの曲を音楽の知識が一切ない私に再現させるには少し時間がかかりすぎてしまいました。でも…こうしてあなたに会うことが出来た」

「…あなたは僕の曲を真面目に聞いてくれていたのか」

「…勝手に使ったのはごめんなさい。でも…あなたにもう一度会うにはこれぐらいしかいい方法が思いつかなくて…本当にごめんなさい」

申し訳なさそうに頭を下げる彼女。僕はそれを見て、怒りの感情などどこかに吹っ飛んでしまった。

彼女に頭を上げるよう促す。

「あなたはなぜこんな方法を？」

「…この曲は私だけしか知りませんでした。でも、私はあなたの伝えたかったことをみなさんにも知って欲しかったんです。それに――あなたの伝えたかったことはまだまだあったはずです。私はただそれが知りたかったのです」

新手の告白である。あまりにも斬新だ。しかし、僕は悪い気はしなかった。あのころの僕の思いを代弁してくれていたのだから。

「……あ、あなたの歌を、もっと聞かせてはいただけませんか？」

やれやれ、とは思いながらも、僕は世界でたった一人の僕のファンに返事をした。

「卑怯だ。そんな熱心に頼み込まれたら――」

E
N
D

（後書き）

最近、パクったパクられたの話をよく聞きます。でも、そんなパクリの裏に、こんな素敵な事情があったらおもしろくないかな？　なんて妄想してみたのです。
しかし、困ったことにこの小説も似た内容のがあったようななかったようなとだんだん不安に…
他人の作品にそこまで意識しないと自分の好きなことが書けなくなるって、ちょっと不自由な世の中ですよね。
パクリかな？なんて思った時は、快くリスペクトされるぐらい自分はすごいんだ、なんて胸を張れるぐらいの気持ちでいたいものです。

ではでは読了有り難うございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0601r/

「お断り」なんて出来ないよ

2011年10月6日23時00分発行